



# 縄文時代の有田町 ～伊古石遺跡～



昭和42年の伊古石遺跡発掘調査風景

有田町の東地区は、窯業の成立に伴い、主に近世になって人々の生活空間として活用されはじめた場所です。しかし西地区では、すでに原始・古代から延々と人々の生活が営まれていたことが分かっています。その実態解明のため、昭和42年には佐賀県教育委員会が「西有田町縄文遺跡発掘調査委員会」を組織し、盗人岩陰遺跡（ぬすっといわかげいせき・別名／中尾岳洞穴）や伊古石遺跡（いこいしいせき）、坂の下遺跡などを発掘調査しています。

そのうち坂の下遺跡では、食料とするため、多量のドングリなどの木の実を貯蔵した状態で、21基の穴が発見されたことで知られます。しかも、その一部が発芽し「縄文アラカシ」として、現在でも佐賀県立博物館の庭で大きく育っています。さらに、貯蔵穴の周辺からは、多くの土器や石器も出土しました。残念ながら、ここでは生活拠点である住居跡は発見されませんでした。当時の人々の食生活の様式を物語る重要な遺跡であることから、現在でも研究資料として広く活用されています。また、盗人岩陰遺跡については、当館報No.72ですすでにご紹介済みですので、今回は伊古石遺跡を取り上げてみたいと思います。

この遺跡は、南北方向に屏風のように連なる国見山麓の東側に、舌状に伸びる丘陵の中でも、坂の下遺跡

にほど近い小丘陵上に位置しています。古くからすでに農地として活用されていましたが、当時はみかん園への転換に伴う遺跡破壊が危惧されたため、発掘調査が実施されています。

この調査は9日間の日程で、事前に推定した遺跡の範囲内に第1～3遺跡とした地点を設け、それぞれに試掘を行いました。第1遺跡からは住居跡が発見されましたが、半分あまりが破壊されてその全貌をつかむことはできず、発掘面積が狭いため単独住居か集落かも明らかにできませんでした。また、第2遺跡からは堆石遺構が発見されましたが、第3遺跡に遺構は残っていませんでした。しかし、遺跡からは縄文時代早期の押型文土器（おしがたもんどき）が数点出土したことから、その時代を推し量るには十分でした。さらに、石器については相当数出土しており、石鏃（せきぞく）が大半を占めるものの、ほかに尖頭状石器（せんとうじょうせっき）、搔器（そうき）、ナイフ形石器、石刃（せきじん）、石錐（せきすい）なども出土しています。

伊古石遺跡周辺に、もともとどれほどの規模の集落があったのかはこれまでのところ不明ですが、この国見山麓沿いの西地区の丘陵や平地には、ほかにも歴史的に重要な意味を持つ遺跡が、今日まで知られることもなく、眠っているのかもしれない。（伊達惇一郎）



伊古石遺跡出土土器  
(上2つが押型文土器)



伊古石遺跡出土石器  
(ナイフ形石器・搔器・削器)



伊古石遺跡出土石器（石鏃）

# 皿 季刊 山

No.127

# 秋 2020

有田町歴史民俗資料館・館報

## 博物館実習生がやってきました

	8月20日(木)
8:30	資料館清掃
8:45	<b>有田町内史跡探訪</b> 磁石場→大イチョウ →陶磁美術館→西洋館 →天狗谷窯跡→広瀬向窯跡 →唐船城跡→坂ノ下遺跡 →西館→原明窯跡→柿右衛門窯跡
12:00	昼休憩
13:00	<b>資料館</b> ①寄贈資料の法量計測・台帳作成・梱包・保管作業 ②前日作成した展示計画案に基づく展示パネル・キャプション等の作成(シミュレーション)
17:00	日誌等記入
17:15	業務終了

実習生のある一日

博物館等において、資料の収集、保管、展示などを行う専門の職員を学芸員といいます。教員などと同様に国家資格で、大学において専門科目を履修して単位を取得する方法が一般的です。その学内で学んだ集大成の場が博物館実習で、実際に学外の博物館等で実践を通じて知識や技術を身に付け、専門職としての心構えを育むために実施されます。今年は、新型コロナウイルス騒動で、全国的に実現が危ぶまれる中、所管の文化庁からも感染に配慮した柔軟な対応が通知されるなど、例年にも増

して緊張感を持った実習が求められています。

当館でも、昨年に続き8月17日(月)～21日(金)の5日間の日程で、県内出身の長崎国際大学在学中の女性を、実習生として受け入れました。当館学芸員も、すでに遠い過去となった自らの体験を想起しつつ、充実した実習となるよう、バラエティに富んだカリキュラムを準備しました。考古資料の整理作業や資料の計測、台帳作成、梱包・保管方法といった資料の取扱いの実体験のほか、ミニ展示計画の作成からその計画に沿った展示シュミレーション、さらには、遺跡見学や夏休み子ども向け教室の体験など、普段大学では経験できな



美術資料の台帳作成の様子

## 令和2年度 町屋模型作り教室を開催しました

夏休み子ども向け教室として、はや20回目を数える「町屋模型作り教室」を、令和2年8月18日(火)・19日(水)の2日間に渡り開催しました。例年、国選定の「有田内山伝統的建造物群保存地区(以下、伝建地区)」の所在する町の東地区を会場としてきましたが、もっと幅広い子ども達に伝統的な町の姿を知ってもらうため、今回はあえて西地区の有田町婦人の家で実施しました。募集定員を超える11名の応募があり、ちょうど博物館実習中の大学生も加わり、楽しい時間を過ごすことができました。

この教室では、約200分の1に縮小した伝建地区に



伝建地区で実在の建物を見学

実在する建物の模型を何棟か作り、川や池、トンバイ堀に草木といったパーツを自由に組み合わせることにより、それぞれ子ども達オリジナルの町並みを再現してもらいました。それに先立ち、伝建地区の説明を受けながら、最初にバスで実際に現地を訪れ、町並みを歩いてその雰囲気を感じました。

作業中は、普段は使い慣れないカッターナイフなどによるけがに注意することはもちろんですが、今年は「三密回避」「消毒」「換気」といったコロナ対策も加わり、参加者全員があらためて気を引き締めての教室となりましたが、続々と新しい有田の町並みが創造さ



集中しての模型製作

## 令和2年度 有田町歴史民俗資料館 企画展のお知らせ

いさまざまな内容で行いました。

今回の実習が、学芸員として、また、社会人として将来を担う上で、何らかの形でお役に立てることを願っています。

### 実習生のコメント

この度、有田町歴史民俗資料館で実習をさせて頂いた長崎国際大学の犬塚です。実習中は、町屋模型作り教室、陶片の水洗い・実測、史跡探訪、展示計画案作りなどたくさんのカリキュラムを体験しました。中でも印象に残ったのが、町内の小学生たちと一緒に参加した町屋模型作り教室です。前半の町並みの視察では、有田内山伝統的建造物群保存地区を歩き、161件の伝統的建造物を美しく維持するための努力を感じました。後半の模型作りでは、子ども達と一緒に模型を作り、石や草、木、トンバイ塀などを配置し、見学した町並みを思い出しながら、個性あふれる町を作りました。途中で飽きてしまうのではという私の心配をよそに、子ども達は細部にまでこだわり、楽しみながら学んでいました。その様子を見て、将来を担う子ども達へ、郷土に誇りを持たせるといふ博物館における教育普及活動の意義を感じました。

れる姿に、今年も無事開催できたことにほっと胸をなで下ろしているところです。

開催に当たっては、例年、準備や当日の子ども達の指導にご協力いただいているれきみん応援団の方々に感謝するとともに、同じく夏休み恒例の「歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう」の事業が、今年は、夏休みの短縮や、炎天下マスクをしておの三密回避は安全性が危惧されるため、中止とせざるを得なくなったことは残念でした。こうした夏休みの企画を通じて、子ども達が生まれ育ったふるさとの文化財への関心が少しでも高まり、有田に愛着を持つ大人に育ってくれることを願っています。



完成した作品とともに集合写真

磁器の町として知られる有田では、400年あまりの間連綿と途切れることなく、窯業の伝統が引き継がれてきました。有田町教育委員会では、その特異な町の歩みを発掘調査という方法によって、これまでもさまざまな姿で蘇らせてきました。

今回の企画展では、それまで「有田皿山職人尽し絵図大皿」などでしかうかがい得なかった、かつての磁器生産の現場の姿を、その工房跡の発見された平成25年から27年実施の泉山一丁目遺跡・中樽一丁目遺跡の発掘調査成果によってご紹介してみたいと思います。今では地下に眠る本物によってしか味わえない有田の経験の一端を、皆さまに分かりやすくお伝えしますのでご期待ください。

### 『まちなかの やきもの工房遺跡みつけた!!』(仮)

～泉山・中樽一丁目遺跡発掘調査報告展～

会 期：令和2年11月14日(土)～12月20日(日)

場 所：有田町泉山一丁目4-1

有田町歴史民俗資料館東館・参考館

時 間：9:00～16:30

入場料：無料



泉山・中樽一丁目遺跡

水簸槽 (すいひそう)

踏み臼 (ふみうす) の臼





## 有田陶磁美術館の展示 ケースを修繕しました

有田陶磁美術館は明治7年（1874）に建てられた焼物倉庫を改築し、佐賀県の登録博物館第1号として昭和29年（1954）に開館しました。館内の展示ケースの大部分は、おそらくこのころに誂えたものでしょう。木製で、補修や照明の交換が行われた形跡はあるものの、長くこの古いケースが使われています。

近年展示ケースの劣化が著しく、交換の必要性が高まってきました。しかしながら展示ケースはたいへん高価なもので、全ケースを新しく交換するには莫大な費用が掛かることから、別の方法を模索することになりました。その結果、古いケースを再利用して歪みや破損部分を修繕し、壁紙を張替え、塗装を行い、建具や照明も取り替えることにし、令和2年5月11日(月)より美術館を一時休館して工事を行いました。



(左上：修理前の展示ケース)  
(右上：修理中の展示ケース)  
(左：修理後の展示ケース)

工事は無事完了し、7月1日(水)から美術館を再開しました。見事によみがえった展示ケースは、木製ならではの重厚な雰囲気を纏っており、明治に建てられた建物そのものとも調和がとれています。装い新たな有田陶磁美術館にどうぞご来館ください。



## 有田小学校で 出張講話を行いました

令和2年7月17日(金)、有田小学校3、4年生を対象に、当館の学芸員が出張講話を行いました。当初は子ども達が資料館を訪れての調べ学習も検討されましたが、新型コロナウイルスの影響で、学外施設での活動に制限がかかることから、このような形となりました。

今回は「総合的な学習」という郷土の歴史や文化を学ぶ授業の一環で、町に古くから伝わる伝説や昔話について話をするようになりました。そこで初代校長江

越礼太の話や、学校の敷地が太平洋戦争中は陶貨工場だった話、さらに小学校がある白川地区は有田・武雄地区で有名な伝説「黒髪山の大蛇退治」の舞台であることから、これらの話を中心に行いました。座学の後は江戸時代の古地図を手に、小学校の周りがある、昔話ゆかりの地を探索しました。

この日は梅雨の合間の快晴で気持ちがよく、子ども達も何気なく毎日歩いている道や川が、古地図を手にすることで全く違って見えたようで、大興奮していました。

新型コロナウイルスの影響で団体見学の受け入れ方法を模索している中、新しい方法で地域学習へ貢献することができ、私たちにとっても意義ある経験となりました。



## ミュージアム周遊パス

8月1日(土)から「ミュージアム周遊パス」がはじまりました。これは、九州・沖縄・山口各県の美術館・博物館170施設で、だれでも利用できる特典クーポン付きパスのことです。パスに掲載されている施設でクーポンを提示すると、様々な特典が受けられます。

有田陶磁美術館と有田町歴史民俗資料館（東館）もこのパスに参加しており、入館してクーポンを掲示していただいた方に、ポストカード2枚を進呈しています。冊子版のパスも配布していますが、配布数に限りがあるためWeb版を利用することをお勧めします。

期間は令和3年1月31日(水)までとなっています。



有田町内や佐賀県内の施設も多数参加しているので、密集を避けつつ、お得に近隣の美術館・博物館巡りをしてはいかがでしょうか。

くわしくは、こちらをご覧ください。

(<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00357903/index.html>)

## 季刊『皿山』

通巻127号（令和2年9月1日）

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4-1

☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL：<http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>